



滋賀県議会議員

県政報告 Vol.24

さとう 健司

あいさつ

平成31年2月県議会は、5414億8千万円の平成31年度予算案や「障害者差別のない共生社会づくり条例」案などを可決して、3月15日に閉会しました。

滋賀の未来を拓き、県民の皆様の暮らしに寄り添う県政の実現を目指して、引き続き全力で取り組んでまいります。皆様のご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◆平成31年2月県議会◆

小児保健医療センターの再整備がスタート

Q 再整備後の小児保健医療センターが果たす役割は？

A 小児保健医療センター、療育部、守山養護学校の一体的整備により、治療の困難な病気の子どもたちが医療、福祉、教育を一体的に受け



られる環境の向上を図るとともに、総合病院との統合により、さらなる高度医療の提供し、小児から成人まで切れ目ない医療を提供していく。今後とも難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療、保健、療育、福祉サービスの県の中核機関としての役割を果たしていく。

Q 患者やその家族、児童生徒など利用者の視点を設計に反映させるべきでは？

A これまでも佐藤議員をはじめ多くの方々から「総合病院に吸収されるのではなく独立した建物が必要」「守山養護学校と病院は別棟にしてほしい」といった意見をいただき、可能な限り基本計画に反映してきた。

今後の施設設計にあたっては、利用される方にとってより良い施設となるよう様々な機会を通じて意見を聞きながら進めていく。

Q 守山養護学校の教育環境の充実について？

A 守山養護学校の移転にあたっては病院と別棟とすることで入院生活と学校生活の環境を明確に分けるとともに、校庭に出て自然に触れる動線を考慮して、平屋の建物とすることを考えている。また、現在、会議室や教材の保管場所の不足、廊下が狭いこと等の課題があると認識しており、改善を図っていきたい。

入院中の児童生徒にとって学びやすく、機能的な学校となるようしっかりと取り組んでいく。

Q 総合病院との統合に向けた取り組みは？

A どのような病院像を目指すのかという理念の構築、共有がまず必要である。その上で医療技術部門や事務局の一体化、医療安全や感染防止等の各種委員会の統合、診察券の統一や患者情報の共有化等のシステムの一体化について具体的な詰めを急ぐ必要がある。ワーキングチームによる検討や経営協議会等への意見聴取をもとに実行に移していく。

Q 病院事業庁の経営に与える影響は？

A 再整備後2年目までは経常損失が発生する見込み。一方で、診療科の充実や重症患者の受入能力が上がることから入院患者が増加するとともに、新しい施設や機能により入院単価の上昇を見込んでおり、開設3年後には収支均衡を図ることができると分析している。試算を現実のものとするために職員一丸となって取り組む。

解説



小児保健医療センターについては、県議会に初当選した平成23年度に常任委員会では将来構想検討委員会のあり方について議論して以来、たびたび県議会でも取り上げ、再整備を求めてきました。ようやく平成31年度予算に設計費用が計上され、2020年度にかけて基本設計、実施設計、2021年度から建築工事に着手、2024年1月に供用が開始されるといふ整備スケジュールが示されました。

しかし、単に老朽化した病院を建替えるだけではなく、時代の要請に応じた本県の新たな医療、保健、療育、福祉サービスの拠点となるよう新病院の将来像がしっかりと示されるよう議論を重ねていきます。

◆平成30年11月県議会◆

NHK大河ドラマを通じた地域の活性化を

Q 取り組みが他府県に遅れをとっているのではないか？

A この機を活かし、本県の戦国を中心とした魅力を発信し、観光誘客につなげるため、大河ドラマを活用した観光施策の展開を市町、観光協会と確認をした。さらに、撮影誘致にも取り組み、10月から県内各地で風景の撮影が始まった。

Q 大津市との連携について？

A 明智光秀公ゆかりの地が数多く残る大津市において「麒麟がくる」大津市観光振興協議会

実現しました

県議会での議論の後、今年1月に、県庁内に「NHKドラマ推進プロジェクトチーム」が設置され、部局横断で本県の魅力発信、観光誘客等の事業に取り組むことになりました。

平成31年度予算においても大河ドラマの放映に合わせ、戦国をテーマとした観光キャンペーンを展開する予算として「戦国ワンダーランド滋賀・びわ湖」観光PR事業費、1億300万円が計上されました。

また、下阪本公園のトイレについては、地域からの要望やこの県議会での質問を受けて整備されることとなり、今年末の完成を目指して既存施設の改修や身体障害者用トイレの増築が進められます。



下阪本公園



未来を担う「ひとづくり」 暮らしを守る「まちづくり」

人口減少とともに、さらに少子高齢化が進む中であらゆる分野で「未来に向けた種まき」をしていく必要があります。

時代の変化に挑むという強い決意で皆さんと一緒に滋賀の未来をつくれます。

未来への 5つの視点



医療・介護の充実、 健康づくりを進めます

- 「命」に関わる政策にこだわります。がん対策をはじめ、地域医療の充実と保健・医療・介護の連携をさらに進め、一人暮らしの高齢者や要介護認定者を地域で支える仕組みをつくります。
- 健康寿命の延伸に向けて医療・看護・介護を担う人材育成、確保に取り組めます。



教育再生、学力向上を 目指します

- 毎年、全国で下位に低迷する学力・学習状況調査の結果を踏まえ、就学前を含めて学びの質を高め、教育再生に全力を挙げます。
- 高度なSTEM教育など外部人材を活用して発達段階に応じたキャリア教育の充実を図ります。



暮らし安心、災害に 強いまちをつくりま

- 国道1号線の新たなバイパスをはじめ災害に強い道路ネットワークの整備を進めます。
- 大戸川をはじめとする河川整備に取り組むとともに、土砂災害防止対策を促進します。
- 大津市東部における警察拠点の検討を進め、警察力の向上や自主防犯活動を支援します。



スポーツと文化で 県民満足度を高めます

- 2024年の国民スポーツ大会などを見据え、スポーツで交流の場を創出し、健康づくりと街のにぎわいの拠点となるスポーツ施設の整備を進めます。
- 琵琶湖文化館の機能を継承し、滋賀県の誇る歴史文化を体感する拠点の整備を進めます。



琵琶湖の保全再生と 活力ある地域社会を つくりま

- 琵琶湖の生態系保全を目指し、セタジミの復活や先進技術を活用したモニタリング体制を構築します。
- 中小企業の廃業率が全国的に高い中で企業承継や起業支援の充実を図るとともに、都市農業を振興します。
- 官民連携で公共交通の活性化を検討します。

